集合住宅

R4 13

住宅の作品名（設計者、建設年）とその特徴に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1 ． 増沢邸［自邸　増沢洵、1952 年］は、3 間× 3 間の 9 坪の平面プランをもつ 2 階建ての計画であり、 3 坪の吹抜けに面して設けた南面大開口部の障子を通して、柔らかな光を室内に取り込んだ住宅である。

2 ． 斎藤助教授の家（清家清、1952 年）は、テラス、廊下、居間が連続する開放的な平面に、移動壁等を配置し、場面に応じて空間を設ける「舞台」の概念を具現化した住宅である。

3 ． ヴィッラ・クックァ（吉阪隆正、1957 年）は、コンクリートの特性を生かした形態と彫りの深い開口をもち、外部に対して閉じることにより「閉鎖性」をつくり出したワンルーム形式の住宅である。

4 ． 正面のない家-H（坂倉準三建築研究所、1962 年）は、 襖 を開くことでワンルームとなる正方形平面に方形屋根を架け、傘の骨のように組まれた木材を内部に現した住宅である。 ✕

R2 12

集合住宅・住宅団地の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1 ． 同潤会江戸川アパート（東京都、1934 年）は、社交室、共同浴場、食堂、洗濯場等の付帯施設を有する集合住宅として計画された。

2 ． コモンシティ星田Ａ２（大阪府、1992 年）は、敷地内の緩斜面を活かした緑道の配置や、塀・門を極力設けない外構計画等により、連続した開放的な外部空間を創り出した戸建ての住宅団地として計画された。

3 ． 幕張ベイタウンパティオス４番街（千葉県、1995 年）は、高層板状住棟による高密度な賃貸集合住宅であり、住戸には、仕事場等として使用できる開放的なトルーム（ホワイエルーム）が設けられ、中廊下やコモンテラスと連続して計画された。 ✕

4 ． 伝石・平田地区仮設住宅団地（岩手県、2011 年）は、東日本大震災の復興支援の一環として建設されたコミュニティケアア型仮設住宅団地であり、診療所付きのサポートセンターや仮設店舗が計画された。

R元 12

ニュータウン及び集合住宅に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1 ． ネクサスワールドのレム棟・コールハース棟（福岡県）は、各住戸に採光と通風を確保するためのプライベートな中庭が設けられた計画である。

2 ． 基町高層アパート（広島県）は、偶数階に通路をもつ住棟を「く」の字型に連結させた計画である。

3 ． 千里ニュータウン（大阪府）は、近隣住区の単位にはとらわれず、将来のワンセンター方式への移行等が意図された計画である。 ✕

4 ． 港北ニュータウン（神奈川県）は、公園、保存緑地と緑道、歩行者専用道路とを結ぶネットワークをもつ計画である。

H30 13

集合住宅に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1． 熊本県営 竜 蛇平団地（熊本市）は、中庭や共用部に面して住戸ごとの土間やテラス等を設け、居住者同士が互いの生活を感じながら居住することができるように計画されている。

2． 真野ふれあい住宅（神戸市）は、阪神・淡路大震災の被災者を対象に建築されたコレクティブハウジングであり、共同の食堂、台所等を設け、居住者が生活の一部を共同で行うことが可能となっている。

3． 世田谷区深沢環境共生住宅（世田谷区）は、木造平家建ての住宅団地の建替え事業により建築された公営の住宅であり、高齢者在宅サービスセンターを併設した、シルバーハウジング・プロジェクトを含むものである。

4． 茨城県営六番池アパート（水戸市）は、三つの住棟、集会室及び中央広場で構成され、中央広場については、住戸又は集会室を介してアクセスする居住者専用のものである。 ✕

H29 13

住宅に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1． かんかん森(東京都)は、各住戸の独立性を保ちつつ、居住者が共同で使用することができる居間や台所等を設置して、コモンミールや掃除等、生活の一部を共同化し ている、コレクティブハウスである。

2． SHARE yaraicho(東京都)は、道路に面する部分は巨大な半透明のテント膜で覆われ、内部は吹抜け空間を介して個室７室とコモンスペースが計画された、シェア ハウスである。

3． 泉北ニュータウン(大阪府)は、空き住戸を活用したサポート付き共同住宅や戸建て住宅を活用した多世代型シェアハウス等の試みが行われている、大規模なニュータ ウンである。

4． 求道學舎(東京都)は、居住者が共同生活をすることに重点を置き、居間や浴室等のコモンスペースの充実を図った、テラスハウスである。 ✕

R5 12

住宅の作品名（設計者、建設地）とその特徴に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1 ． バラガン自邸（ルイス・バラガン、メキシコ）は、庭と分かち難く結びついた内部空間をもち、居間の奥には庭に面して大きな窓を設け、積極的に外部を内部に取り込んだ住宅である。

2 ． 夏の家（E. G. アスプルンド、スウェーデン）は、切妻屋根の 2 棟が組み合わさった形状であり、主棟に対し、居間棟をずらして配置することで、主棟にあるホール（食堂）からも海を見渡せる ようにした住宅である。

3 ． ガラスの家（フィリップ・ジョンソン、アメリカ）は、南北全面を半透明のガラスブロック壁とし、間仕切り壁にガラスやパンチングメタルを使うことで、内部まで明るい一塊の空間とした住宅である。 ✕

4 ． パワ自邸［Number 11］（ジェフリー・パワ、スリランカ）は、4 軒長屋を改造・改築することにより、路地を長い回廊に置き換え、アプローチから建築物の深部に至るまでに坪庭が随所に設けられた住宅である。

H25 12

住宅に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1． サービス付き高齢者向け住宅は、バリアフリー構造を有し、介護・医療と連携して高齢者を支援するサービスの提供等に関して一定の基準を満たし、単身高齢者世帯、 高齢者夫婦世帯等の居住の安定を確保するための賃貸等の住宅である。

2． コレクティブハウスは、各住戸の独立性を保ちながら、子育てや家事等の作業を共 同で担い合う相互扶助のなサービスと住宅とを組み合わせた集合住宅である。

3． シルバーハウジング・プロジェクトは、高齢者の生活特性に配慮した住宅及び附帯 施設の供給並びにライフサポートアドバイザーにより福祉サービスの提供を行う事 業である。

4． コーポラティブハウスは、建築主が入居希望者の意見に従い建築する賃貸集合住宅 である。 ✕

H26 13

住宅の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1． コートハウスは、建築物や塀で囲まれた中庭をもつ住宅の形式であり、狭い敷地に おいてもプライバシーを確保しやすい。

2． ストリート型住宅は、集合住宅の接地階部分において、居住者が日常生活の延長と して、街並みの形成に参画できるような配慮を行うことによって、街路の活性化を 意図した集合住宅の住戸形式をいう。

3． デュアルリビングは、廊下に面してリビングルームをもつ二棟の片廊下型住棟を向 かい合わせに配置し、部分的にエレベーターホール等で連結した住棟形式をいう。 ✕

4． ライトウェルは、住戸の奥行きが深い場合であっても、通風と採光を得ることができる計画手法である。

H28 13

住宅団地及び集合住宅の計画上の特徴に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1． 茨城県営松代アパート(茨城県つくば市)は、七つの住棟により囲まれた二つの中庭をもち、屋根葺材には地元で焼かれた瓦を使用する等、周辺との融和に配慮された地上３階建ての低層集合住宅である。 ✕

2． コモンシティ星田Ａ２(大阪府交野市)は、敷地内の緩斜面を活かした緑道の配置や、塀・門を極力設けない外構計画等により、連続した開放的な外部空間を創り出した 戸建ての住宅団地である。

3． NEXT21(大阪府大阪市)は、二段階供給方式(スケルトン・インフィル分離方式)と環境共生をテーマにし、住戸の外壁等の規格化・部品化による可変性の確保や屋 上植栽等が試みられた集合住宅である。

4． 幕張ベイタウンパティオス４番街(千葉県千葉市)は、壁面線の位置・高さ、壁面率等についての「都市デザインガイドライン」に沿って設計された集合住宅であり、街 区型の形式に特徴がある。

H27 12

合住宅に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1． 用賀Ａフラット(世田谷区)は、道路に対して視覚的に開放されつつ、ガラススクリーンで隔てられた中庭をもつ、アーティストやデザイナーの入居を想定した賃貸 集合住宅である。

2． 東雲キャナルコート(江東区)は、６街区に分割された敷地に、それぞれ別の建築士事務所が設計を行った低層集合住宅団地である。 ✕

3． 岐阜県営住宅ハイタウン北方-南ブロック(北方町)は、昭和　40年代に建設された公営住宅の建替えに当たって、21世紀に向けた居住様式を提案することを目標として設計された集合住宅団地である。

4． ネクサスワールドのレム棟・コールハース棟(福岡市)は、各戸に採光と通風を確保するためのプライベートな中庭が設けられた接地型の集合住宅である。

H26 12

集合住宅等の事例とその特徴との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

- Mポート（熊本県熊本市）：居住者の参加によって各住戸の設計が行われたコーポラティブハウスであり、居住者の交流等を意図して共用空間を配置した。
- 桜台コートビレッジ（神奈川県横浜市）：西向きの急斜面に対して住戸の軸を 45度に振り、雁行した平面によりバルコニーや開口部に変化を与え、プライバシーの確保を図った。
- りえんと多摩平（東京都日野市）：多世代の居住者が暮らす新たな街に生まれ変わらせる団地再生事業の一つとして、民間事業者が改修工事を行い、団地の一部の住棟をシェアハウスとして再生した
- 求道學舎（東京都文京区）：80人が集まって生活することに重点を置き、居住者全員で使用するリビングスペースや浴場等の共用空間の充実を図った ✕

茨城県営六番池アパート（水戸市）

- ２つの中庭　７つの住棟、3階建て　低層住宅
- 屋根葺材（傾斜屋根）：地元産の瓦を使用　周辺との融和に配慮

茨城県営松代アパート(茨城県つくば市)

- １つの中庭を囲う　6階建、４棟
- 上の道　４階レベルで回廊　道空間：植栽、プレイロット

NEXT21(大阪府大阪市)

- 二段階供給方式　(スケルトン・インフィル分離方式)
- テーマ：環境共生　住戸の外壁等　規格化・部品化　屋上植栽等　可変性の確保

かんかん森(東京都)

- コレクティブハウス
  - 共有スペース：共同使用　居間、食堂、台所等
  - 共同化　コモンミール（食事）、掃除
- 旧中学校　跡地　中心：高齢者住宅　12階建

SHARE yaraicho(東京都)

- コモンスペース　道路面：巨大な半透明のテント膜
- シェアハウス　鉄骨造、3階建

泉北ニュータウン(大阪府)

- 空き住戸：活用　多世代型シェアハウス

熊本県営竜蛇平団地（熊本市）

- 住棟；直線状と雁行　中庭

真野ふれあい住宅（神戸市）

- コレクティブハウス　バリアフリー
- 阪神・淡路大震災

熊本県営保田窪第一団地

- 住棟（３棟）、集会室、中央広場
- 中央広場　アクセス：居住者専用　住戸又は集会室を介する

求道學舎(東京都)

- コーポラティブハウス　として再生
- 元学生寮　複数連結　小家族向け
- RC造　3階建

岐阜県営住宅ハイタウン北方-南ブロック(北方町)

- 公営住宅の建替え
- 昭和40年代→21世紀に向けた居住様式

東雲キャナルコート（江東区）

- 設計：それぞれ別の建築士事務所　６街区
- 工場跡地　高層集合住宅団地

用賀Ａフラット(世田谷区)

- メゾネット形式　視覚的：開放　道路に対して
- 中庭　ガラススクリーン
- デザイナー　アーティスト　自由度：高　入居：想定

ネクサスワールドのレム棟・コールハース棟(福岡市)

- 各戸に採光と通風を確保
- プライベートな中庭
- トリプレックス（３層）　接地型のメゾネット形式

世田谷区深沢環境共生住宅（世田谷区）

- 環境共生技術
- 高齢者在宅サービス

コモンシティ星田A2(大阪府交野市)

- 敷地内の緩斜面：緑道
- 戸建ての住宅団地
- 外部空間：連続した開放的　外構：塀・門を極力設けない

幕張ベイタウンパティオス４番街(千葉県千葉市)

都市デザインガイドライン

- 壁面線の位置・高さ、壁面率等：基壇部、中間部、頂部
- 特徴街区型の形式：統一的デザイン

居住施設

設計手法

- ライトコート、ライトウェル
  - 住戸の奥行きが深い
  - 通風と採光
- 高階高住戸　階高1.5倍（4.5m）
- リビングアクセス型　共用廊下側に居間
- スケルトン・インフィル方式
  - 住宅の二段階供給方式
    - インフィル　住戸用間仕切り、内装、設備
    - スケルトン　構造躯体、共用部分・設備
- コーポラティブハウス　組合結成・（実施）
  - 協同組合運営方式
  - 企画・計画・建設・入居・管理
- ストリート型住宅　集合住宅の接地階部分　日常生活の延長
  - 参画：街並みの形成に配慮
  - 街路の活性化
- デュアルリビング　ツインリビング　同じ住戸内
  - リビング２箇所
  - 利用目的：異なる
- コートハウス
  - 中庭　建築物、塀：囲む
  - 狭い敷地　プライバシー；確保
- 日本の伝統的な町屋
  - 開口が狭い　奥行きの深い
  - 通り庭
    - 道路から裏庭まで達する細長い土間
    - 屋内の主要な通路
- コレクティブハウス
  - 相互扶助活動　子育てや家事等の作業を共同で担い合う
  - 各住戸の独立性
- シルバーハウジング・プロジェクト
  - 高齢者の生活特性
    - 住宅
    - 附帯 施設
    - ライフサポートアドバイザー
  - 事業：福祉サービスの提供

住戸断面

- サービス付き高齢者向け住宅
  - バリアフリー構造
  - 介護⇔医療：連携
  - 賃貸等の住宅
    - 単身高齢者世帯
    - 高齢者夫婦世帯等
- 要介護高齢者等の日常生活等の支援　東日本大震災の被災地への復興支援　サポート拠点（サポート センター）
- フラット型
- メゾネット型
  - 大規模
  - 高さ：1.1m
- 足掛り：横桟→避ける　手すり子間隔：11cm　手すり

用語

- ハンプ
  - 自動車：速度を抑制
  - 歩行者等：安全を確保
- 階段室型
- 片廊下型　中廊下型
- スキップフロア型　ツインコリダー型
- コア型　ボイド型
- 専用庭　テラスハウス
- コモンスペース　タウンハウス

中高層集合住宅

低層集合住宅

- 通風・採光
- ２方向避難
- プライバシー
- 共用部